

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

参加学生教育機関名 (学校名・学部学科等)	宮城大、石巻専修大、東北工業大 仙台高専、東北電子専門学校等6校	実施時期	2012年度 8～9月、11月
対象学年・学期・人数	大学3, 2年次、高専4年生、高専専攻科1年生、専門学校高度専門士4年課程3年生 計25名		
講座名	IT業界体験インターシップ「IT企画開発・マネジメント実践コース」		
主催団体	一般社団法人宮城県情報サービス産業協会(略称:MISA)		
支援・連携の種類	MISA : 講座の企画、学生募集広報活動、講座運営 講師企業 : 教材の作成、講座の実施、受講生のスキル評価 企業見学協力企業: 企業見学の受け入れ、学生との懇談会 東北電子専門学校: 講座会場提供、講座当日運営		
講座の概要・特徴	疑似的な開発プロジェクトを通じて、SE業務を体験することで、IT人材としてのキャリア形成(興味)やさらなる技術(知識)修得のきっかけになることを期待している。グループワークによりチームでものを作り上げることの難しさや楽しさを体験してもらう。また、受講者にとってIT業界の職業がマッチするのか、アンマッチなのかに気付いてもらう。		
産学連携検討の背景	経済産業省「産学人材育成パートナーシップ事業」の一環として、仙台ソフトウェアセンターが主体で実施してきた「産学協同実践的IT教育訓練」を平成18年より、MISAが引き継ぎ実施することとなった。		
目的・目標	IT企業におけるプロジェクトマネジメント手法を用いたシステム開発プロジェクトの模擬体験を通じ、SE実務を理解する。 ソフトウェア工学、プロジェクトマネジメント、要件定義など現実の情報システム企画開発に必要なスキルを身につける。		
継続にあたっての課題・懸念	「将来に向けたIT業界担い手の育成と地域におけるIT人材の定着」を将来目標とし、外部予算充当にかかわらず、継続していくシステムとしていくには、地域産業政策に基づく産学官の一層の連携と訓練のあり方や人材確保に向けた仕組み作り、企業のコンセンサス作りが求められる。		
講座の位置づけ	従来の企業単位で個別に受け入れるインターンシップでは、セキュリティの制約やプロジェクト単位での業務などIT業界特有の事情もあり、実際のSE業務の全体プロセスを実体験できる場がなかった。本インターンシップは、この課題を克服し、学生にIT業界やその実務を直接理解してもらうことを主眼とし、業界体験インターンシップとして開催する。		
履修前提条件	特になし		
授業準備と実施の体制	教育機関: 学生募集の学内PR MISA: 講師選定、講座開設準備(募集要領、実施ガイドライン作成、各種様式作成)、運営、費用負担 企業: 講師としてカリキュラムの作成および講座の実施、演習指導、ドキュメント作成指導、レビュー、プレゼン指導、企業見学の受け入れ 東北電子専門学校: 講座会場提供、講座当日運営		
成績評価の方法	・システム開発プロセスの理解度、スキルの習得度、チームへの貢献度、コミュニケーション力、マネジメント力、成果をまとめる力、プレゼンテーション力		

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ=90分で実施) 各日とも原則4コマ	演習・実習	実施担当・役割分担
	<1日目> ガイダンス	ミーティング、講義、 グループワーク	MISA人財確保委員会 企業講師
	<2日目> 提案書の作成	講義、グループワーク	企業講師
	<3日目> 設計書の作成	講義、グループワーク	企業講師
	<4日目> テスト手法と工数見積もり	講義、グループワーク/ 演習	企業講師
	<5日目> MISA会員企業見学&懇談会		見学協力企業
	<6日目> 開発演習1	グループワーク/演習	企業講師
	<7日目> 開発演習2	講義、グループワーク/ 演習	企業講師
	<8日目> 仕様変更対応	グループワーク/演習	企業講師
	<9日目> 成果物整理、納品、プレゼン資料作成/発表	グループワーク/演習	企業講師
	<10日目> 成果発表会、修了証書&スキル習得証明書授与	プレゼンテーション	MISA人財確保委員会 企業講師

講座ならびに演習・実習の具体的な進め方	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 提案書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 提案書の作成について講義による解説とグループワーク。言語の基礎について講義とグループワーク。 ◆ 設計書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計書の作成について、講義による解説とグループワーク。言語の基礎について講義とグループワーク。 ◆ テスト手法/工数見積り <ul style="list-style-type: none"> ・ テスト方法とPHPUnitについて講義による解説とグループワーク。機能別の開発演習。言語の基礎について講義とグループワーク。 ◆ 開発演習1 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機能別の開発演習。 ◆ 開発演習2 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機能別の開発演習。総合試験についてグループワーク。 ◆ 仕様変更対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 提案書と設計書の修正についてグループワーク。仕様変更に対応する開発演習。 ◆ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果物の整理と納品の準備。デモ環境の整備。プレゼン資料の作成。
---------------------	--

2. 講座実施後の情報

受講者の声(受講目的、修得目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT業界の実際の仕事のプロセスを学びたかった。 ・ 自分のスキルを向上させたいと思った。 ・ イメージとしてあるIT業界と、実際のIT業界との差について知りたかった。 ・ 実際にプロジェクトをどのように進めるか知りたかった。 ・ IT業界の仕事に興味を持っていたが、業務の実態を知らずに就職する事に不安を覚え、当講座を受講した。 ・ 普段、学校では経験することができないグループワークを経験できると思った。
受講者の感想(本講座で得られたもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムの知識以外からも、アイデアの出し方やまとめ方など、学べることが多かった。 ・ 実際のシステム開発の基本的な部分を解説して頂けたことが良かった。 ・ プロジェクトを実際の仕事をやるかのように疑似体験できたのはとても貴重なことだ。 ・ 演習に使う技術の解説が、情報系の学生にとっては物足りなく、非情報系の学生には少々敷居の高いものになっていたように感じた。 ・ 仕事が行われている現場を間近に見る機会を頂けたことは非常に感動した。また、様々な役職につかれている社員の方々と直接お話しをすることができ、今後の就職活動等にも役に立つ経験ができた。 ・ システム開発の難しさを知ったが、同時に難しさを克服することの楽しさも知った。 ・ どんなに職業の情報を集めたとしても、体験しないと分からない事がある。それを知るためにインターンシップはとても有効性が高いと今回の体験から感じた。 ・ 今回学んだ中で一番大事だと思ったことは、プログラミングの知識ではなく、ITサービスを提供するものとしての心構えや社会人としての仕事への姿勢である。 ・ IT企業への就職を考えている学生はぜひとも受講してほしい。 ・ 授業とは違い自分たちで行動することの大変さが分かった。 ・ 現役のエンジニアが講師を担当しているため、実践的な知識を身に付けられる。

3. 運営団体・講師企業からの情報

提供教材・コンテンツ情報	講師企業がインターンシップの講座用に作成したもの。
講座実施における企業・団体の役割	MISA : 講座の企画、学生募集広報活動、講座運営 講師企業 : 教材の作成、講座の実施、受講生のスキル評価 企業見学協力企業: 企業見学の受け入れ、学生との懇談会 東北電子専門学校: 講座会場提供、講座当日運営
企業・団体からの推薦コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループワークを通してものを作り上げる(システム開発をする)ことは、学生にとって普段学校で行われていないこともあり、コミュニケーションや情報共有の難しさを学ぶことができる貴重な経験となっている。 ・ インターンシップという意味合いから企業見学・懇談会を設けているが、実際の職場を見ることや直接社員と会話することで、職業イメージを実感することが出来たという感想が多く、企業見学は当インターンシップに必須なものとして位置づけている。 ・ 受講後アンケートから、受講前にIT業界へぼんやりと就職したいと思っていたと答えた学生の半数が、受講後はIT業界に就職したいという意識が芽生えたと答えており、変化が見られる。意識がはっきりIT業界を目指すように変わったことは、このインターンシップの効果であると考えられる。
その他の産学連携人材育成活動	<中学校・高等学校向け出前授業> MISAが主体となり、社会の一線で活躍する技術者や経営者を講師とし、産業界の技術者だからできることへの強いこだわりや、考える仕事のやりがいや楽しさを生徒に伝える出前授業を実施している。 また、理数系の教科を学ぶ意義を社会に照らしながら考えられるよう工夫を加え、単なる講話や理科実験ではなく、理数系の学習や職業観の醸成に切り込んだ教育プログラムにしている。 平成24年度は、高等学校へ6授業を実施・予定(5授業実施済、1授業予定)している。

2. 講座実施後の情報

<p>受講者の声(受講目的、修得目標)</p>	<p>※履修にあたっての興味・関心ならびに目的・目標など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT業界の実際の仕事のプロセスを学びたかった。 ・ 自分のスキルを向上させたいと思った。 ・ イメージとしてあるIT業界と、実際のIT業界との差について知りたかった。 ・ 実際にプロジェクトをどのように進めるか知りたかった。 ・ IT業界の仕事に興味を持っていたが、業務の実態を知らずに就職する事に不安を覚え、当講座を受講した。 ・ 普段、学校では経験することができないグループワークを経験できると思った。
<p>受講者の感想(本講座で得られたもの)</p>	<p>※受講者の視点から良かった点や改善を望む点、後輩への履修推奨などを含めた感想(アンケートやヒアリングにより取得)を記す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムの知識以外からも、アイデアの出し方やまとめ方など、学べるが多かった。 ・ 実際のシステム開発の基本的な部分を解説して頂けたことが良かった。 ・ プロジェクトを実際の仕事をやるかのように疑似体験できたのはとても貴重なことだ。 ・ 演習に使う技術の解説が、情報系の学生にとっては物足りなく、非情報系の学生には少々敷居の高いものになっていたように感じた。 ・ 仕事が行われている現場を間近に見る機会を頂けたことは非常に感動した。また、様々な役職につかれている社員の方々と直接お話しをすることができ、今後の就職活動等にも役に立つ経験ができた。 ・ システム開発の難しさを知ったが、同時に難しさを克服することの楽しさも知った。 ・ どんなに職業の情報を集めたとしても、体験しないと分からない事がある。それを知るためにインターンシップはとても有効性が高いと今回の体験から感じた。 ・ 今回学んだ中で一番大事だと思ったことは、プログラミングの知識ではなく、ITサービスを提供するものとしての心構えや社会人としての仕事への姿勢である。 ・ IT企業への就職を考えている学生はぜひとも受講してほしい。 ・ 授業とは違い自分たちで行動することの大変さが分かった。 ・ 現役のエンジニアが講師を担当しているため、実践的な知識を身に付けられる。
<p>先生の評価</p>	<p>※産学連携の目的や期待に照らして、良かった点／改善を要する点／課題など主催者(教育機関)の所感を記す。あわせて工夫した点や類似の検討を行う際のアドバイスを記していただく。</p>

企業・団体による評価	※支援企業・団体の立場から、良かった点／改善を要する点／課題などを記す。
今後の展望 (継続に向けた課題)	※教育機関における自主運営やノウハウの移植、継続的な連携(役割分担)等に関する検討状況。

3. 運営団体・講師企業からの情報

提供教材・コンテンツ情報	※教材・コンテンツの名称、講座／演習用の区別、有償講座／社内利用教材等の区別 講師企業がインターンシップの講座用に作成したもの。		
提供元	※教材の出版元や講座の所有者名	費用(標準価格)	※教材費または講座の受講料 個別相談
目的・目標	※授業支援の目的・目標と具体的な内容。 「1. 講座の計画から実施までの情報」シート「目的・目標」に同じ		
具体的な内容または提供教材の内容	※支援場面(講義の分担、レビュー機会)や提供コンテンツの目次構成など。 「1. 講座の計画から実施までの情報」シート「講座の構成(シラバス)」、「講座ならびに演習・実習の具体的な進め方」に同じ。		
講座実施における企業・団体の役割	※支援・連携の類型(教材提供、講師派遣、成果物レビューなど)に照らして、企業・団体側の役割分担と体制(対応人数や日数・工数など)を記す。 MISA: 講座の企画、学生募集広報活動、講座運営 講師企業: 教材の作成、講座の実施、受講生のスキル評価 企業見学協力企業: 企業見学の受け入れ、学生との懇談会 東北電子専門学校: 講座会場提供、講座当日運営		
企業・団体からの推薦コメント	※企業・団体からの推薦コメント等を記す。 ・グループワークを通してものを作り上げる(システム開発をする)ことは、学生にとって普段学校で行われていないこともあり、コミュニケーションや情報共有の難しさを学ぶことができる貴重な経験となっている。 ・インターンシップという意味合いから企業見学・懇談会を設けているが、実際の職場を見ることや直接社員と会話することで、職業イメージを実感することが出来たという感想が多く、企業見学は当インターンシップに必須なものとして位置づけている。 ・受講後アンケートから、受講前にIT業界へぼんやりと就職したいと思っていたと答えた学生の半数が、受講後はIT業界に就職したいという意識が芽生えたと答えており、変化が見られる。意識がはっきりIT業界を目指すように変わったことは、このインターンシップの効果であると考えられる。		
その他の産学連携人材育成活動	＜中学校・高等学校向け出前授業＞ MISAが主体となり、社会の一線で活躍する技術者や経営者を講師とし、産業界の技術者だからできることへの強いこだわりや、考える仕事のやりがいや楽しさを生徒に伝える出前授業を実施している。 また、理数系の教科を学ぶ意義を社会に照らしながら考えられるよう工夫を加え、単なる講話や理科実験ではなく、理数系の学習や職業観の醸成に切り込んだ教育プログラムにしている。 平成24年度は、高等学校へ6授業を実施・予定(5授業実施済、1授業予定)している。		

(添付資料) ※公開可能な参考資料や成果物サンプルを添える。必要に応じて著作権や利用制限を明示。